

プログラム近況報告

エチオピア連邦民主共和国 デラ地域開発プログラム(ETH-181725)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

井戸の支援により土地が潤い、 作物が実りはじめています!

支援地域に住むシサイエさん一家は、両親と子どもの7人家族です。一家の住む村には川がなく、雨水に頼った農業を行っていましたが、生活は苦しく、子どもたちを学校に行かせることができませんでした。そのような中、地域の農業生産高を向上し、子どもたちが十分な食料を得られるようワールド・ビジョンが行っていた活動に、一家も参加するようになりました。地域住民との話し合いを通じ、地下水を使った灌がい設備を地域に設置することに決まり、住民も協力して井戸を掘りました。また、井戸から簡単に

水を汲み上げることのできるロープ・ポンプが設置され、井戸水を畑に引けるようになりました。今では、トマトや玉ねぎ、キャベツ、ピーマンなどが収穫できるようになり、シサイエさんは「これで子どもたちを学校に行かせ、医療費を支払うことができる!」と喜んでいます。

今後も地域住民と協力し、子どもたちが健やかに成長できる地域を目指し、活動を進めていきます。



地元政府や地域住民と協力し、子どもたちの学習環境改善に取り組んでいます

畑で農作業をするシサイエさん。井戸から水を引けるようになり農地の生産性向上による世帯収入の増加が期待されています



チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

デラ地域の人々に代わり、子どもたちの生活がより良いものになるよう支援を続けてくださっている皆さまに感謝申し上げます。

ここでご報告させていただいております通り、地域では様々な分野で変化が生まれています。皆さまからの惜しみないご支援により、これらの活動を行うことができましたことに、心より感謝申し上げます。子どもたちの健やかな成長がこれからも促されるよう、今後も引き続きデラ地域を支えてくださいますようお願いいたします。

セブシベ・アテム (デラADPマネージャー)



教育プロジェクト

デラ地域の中でも特に人口密度が高く、就学年齢の子どもたちが多く住む地区にある小学校は、定員50人の教室に、70～75人の生徒がおり、子どもたちが授業に集中しにくい環境でした。また、校舎も泥や木材などで作られ、耐久性が低く傾いており、乾期は埃っぽく、雨期にはぬかるんでいました。

校舎の増築に際しては、特に1年生と2年生の教室をつくることを優先しました。子どもたちの両親や地域の人々も、地ならしや掘削、不要な砂の取り除きなど、建設工事に参加しました。新たに作られた校舎は4つの教室があり、午前と午後2回に分けて実施される授業では、計400人の子どもたちを収容できるようになりました。



新たに建設された校舎に子どもたちは大喜びです



一人ひとりがイスに座って、十分なスペースで学べるようになりました

学校でサッカーをする子どもたち。サッカーボールやユニフォームが支援されました



保健プロジェクト

母親と子どもたちの健康状態の改善に向けて活動を行っています

現地での調査や視察を通じて得られた地域住民の必要に基づいて、地域内の保健センターや診療所に、医療器具や薬品が提供されました。また、その内の一つの保健センターには、必要な備品が整った保健室を増築しました。これにより収容人数が増え、近隣の2万5千世帯の住民が利用できるようになりました。また、地域の保健普及員や母親を対象に、必要な栄養摂取に関するトレーニングが実施されました。これにより、地域の子どもたちの栄養状態改善のために必要な知識が深まり、また、妊産婦への鉄分や葉酸などの栄養補給剤の配布なども行われました。そのほか、感染症予防のために予防接種を受けることの大切さや、マラリアの予防方法、HIV/エイズの予防と検査を受診することについてなどの、啓発キャンペーンを行いました。



保健センターに増築された施設



診察を受ける地域の住民

水・衛生改善プロジェクト

デラADPの対象地域では、安全な水供給のため、井戸とロープ・ポンプが設置されました。それにあわせて水の浄化を行う錠剤を配布し、水質の確保された水を飲むことができるようになりました。

地域の学校には男女別になっているトイレが設置され、子どもたちが学校に行きやすい環境が整いました。

さらに母親を対象に、手洗い、水浴びなど衛生についてのトレーニングも実施し、意識を啓発しました。



井戸水を使って手洗いする子どもたち

会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

ETH-181725

(単位:円)

プログラム支援額

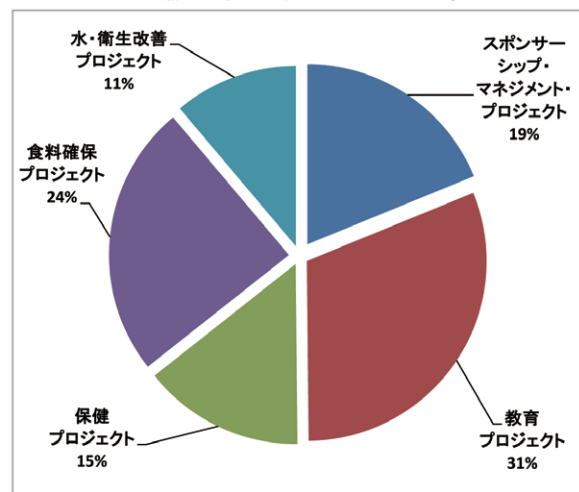
| | |
|----------------|------------|
| チャイルド・スポンサーシップ | 66,293,339 |
| 当期支援額 | 66,293,339 |
| 前期繰越金 | 3,350,238 |
| プログラム支援額合計 | 69,643,577 |

プログラム支出額

| | |
|------------------------|------------|
| スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト | 12,374,579 |
| 教育プロジェクト | 20,401,315 |
| 保健プロジェクト | 9,540,086 |
| 食料確保プロジェクト | 16,111,648 |
| 水・衛生改善プロジェクト | 7,329,929 |

| | |
|------------|------------|
| プログラム支出額合計 | 65,757,557 |
| 次期繰越額 | 3,886,020 |

支援分野別内訳(ETH-181725)



食料確保プロジェクト

地域の食料の収穫高を向上させるため、農業技術の研修を実施したり、農地に灌がい設備をつくるために、浅井戸を掘り、資材やロープ・ポンプを配布しました。

また、耕作用の家畜、農機具、種を配布しました。節水して農業を行う方法や、資源を有効活用する方法についても、学ぶ機会を提供しました。これらの取り組みにより、生産性の高い農業を実施できるようになってきました。

畜産に関しては、羊や牛、鶏などの家畜の提供や、飼料用の種の配布をしたり、飼育にともなう技術訓練を行いました。さらに地域で盛んな養蜂についても養蜂箱を配布するとともに、必要な技術を学ぶ場を提供しました。



ロープ・ポンプを使って水汲みをする住民



牛の支援を受けた家族

鶏を支援し、飼育方法について技術訓練を行いました



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

スポンサーへ手紙を書いているチャイルド



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

エチオピア連邦民主共和国 ゴンダール・ズリア地域開発プログラム(ETH-182258)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



食糧確保と教育分野に力を入れた活動が行われています

ゴンダール・ズリア地域開発プログラム(以下、ADP)では、2013年度から新しいプログラムによる活動が始まっています。基本的な方針・内容は変わっていませんが、これからは食糧確保や教育分野に力を入れていきます。本年度より、学校の課外活動として、子ども同士が勉強を教え合う活動を始めています。ある男子生徒は物理が得意なので、授業についていけない同級生に教えています。彼は小さいころ両親を亡くし、おじさんの家に預けられ、家計を助けるため自分も物売りをするなど、勉強をする時間が十分ありませんでした。しかし、生計向上や学用品の支援をおじさんや彼自身が受けたことで、勉強できる時間が以前より増え、同級生に教えてあげられるようになりました。将来は医者になって心臓病で苦しんでいる子どもたちを救いたい、という夢を持っています。一人ひとりの子どもたちに大きな可能性があります。ADPではそうした可能性を一人でも多く伸ばしてあげたいという気持ちで、日々活動しています。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をも喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

ゴンドール・ズリア地域よりごあいさつ申し上げます。地域の子どもたちと人々に代わり、皆さまからの温かいご支援に心より感謝申し上げます。ご支援により、地域に住む特に厳しい環境の中にある子どもたちの生活が改善されています。感謝を込めて、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ヨナス アティクウット
(ゴンドール・ズリアADPマネージャー)



食糧確保プロジェクト

農耕用の牛や農具の提供、改良種(「テフ」、小麦、野菜等)の配布、農業研修を行い、844世帯が改良した種・技術での農業を始めています。40世帯の農家には、農地で水を無駄に使わないための灌がい技術の研修を行いました。これまでの支援結果は、地域の農業・地域開発局の統計によると、農作物(野菜を含む)の収穫高が、76qt/ヘクタール(2012年)から92.7qt/ヘクタール(2013年)に増えました。

※「テフ」とは、エチオピア原産のイネ科の穀物で、エチオピアでは主食に供されています。

また、農家の人々が農業以外からの収入を得られるよう、若者や貧困世帯の女性を中心に600人以上に対

して、小規模ビジネスの計画づくりや基本的な帳簿のつけ方、貯蓄や借入の方法に関して研修を行いました。研修を受けた6割以上の人々が小規模ビジネスを始めており、ある貧困世帯の女性は10人のグループを作り、支援された開業資金を元に食品加工と販売を始めました。このことにより、収入を得られるようになり、子どもたちが十分な食事をとり、学校にも通えるようになりました。地域では、生乳を売って収入を得るための家畜支援も、引き続き行っています。

地域の家庭では少しずつ貯蓄ができるようになり、地域の金融機関にお金を預ける方法について紹介も行いました。



地域で植林をするため様々な種類の苗木を栽培しました



新種のテフを栽培するため、種の支援を受けた人々



新しい栽培方法について実際に農場を視察して研修を行いました

そのほか、植林活動に210世帯が参加しました。支援地域では土地の劣化が進み、今年度地域で井戸を掘削した時も、一カ所では掘削を断念させざるを得ないほどでした。植林活動としては、政府が所有する育苗場と各世帯が所有する育苗場に対し、農具や様々な育苗樹種を配布したり、流域の水をどのように生産的に利用するか話し合う住民集会を持ちました。

支援地域には、嵐などの強風や火事で家を失ったものの、まだ建て直しが出来ていない貧困世帯が複数あります。そうした家庭に対し、木材や泥で家を再建する支援をしました。



収入向上のため、雌ヤギ5匹と雄ヤギ1匹の支援を受けた家族



小規模ビジネスで学んだ知識をもとに、加工した食品を販売する女性のお店



木材や泥で家の再建支援を受けた家族

教育プロジェクト

2つの小学校の校舎を増設し、400人（うち女子212人）が教室で授業を受けられるようになりました。また、10の小学校には実験用の器具を支援しました。地域の教育局と協力のもと、各世帯に子どもたちに教育を受けさせることの大切さを伝えた結果、2011～12年度には84.6%だった就学率は、2012～13年度には89.3%に向上しています。しかし、子どもたちは家庭で農作業を行う貴重な働き手とされており、中途退学する子どもたちが増え、2011～12年度の8.7%から2012～13年度の11.1%となり、次年度以降の課題となっています。

地域では、障がいを持つ子どもが一人でも多く学校へ行けるよう支援をしています。今年度は視聴覚障がいを持つ18人の子どもに白杖や手話・点字で学ぶための教材等のほか、地域の大人たちへ啓発研修を行いました。また、地元政府への啓発活動の結果が、ようやく見られるようになり、これまで行ってきた障がい児への職業訓練は、今後、地域の教育局が引き継いで行うことになりました。



視覚障がいの子もたちへ学用品と白杖を支援しました



子どもたち同士で教え合うことで、全体の成績が向上しています

そのほか、子どもたちの読み書きの能力向上のため、地域の小学校教師に対し、読み書きの苦手な子どもたちへ個人指導を行う重要性や、その方法について研修を行いました。その結果、計2,910人の子どもたちが、放課後に個人指導を受けることができました。また、ある中高校（中等教育課程）では、子ども同士で教え合うグループの活動を始め、能力の高い子どもが同級生に教えるようになりました。全体の成績が向上したり、退学者が減るなどの効果が見られ始めています。

会計報告

収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

ETH-182258
(単位:円)

プログラム支援額

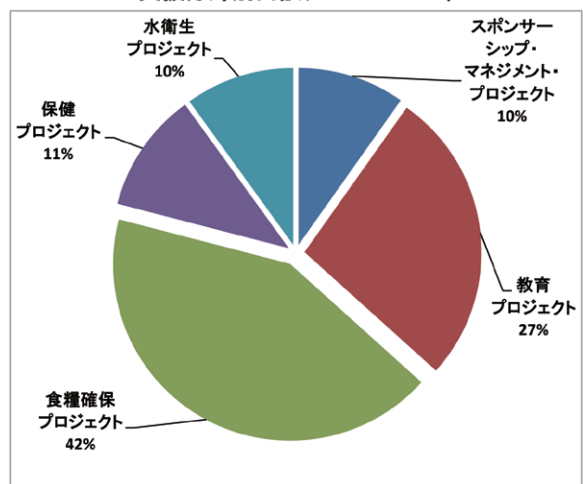
| | |
|----------------|------------|
| チャイルド・スポンサーシップ | 74,001,208 |
| 当期支援額 | 74,001,208 |
| 前期繰越金 | -2,977,913 |
| プログラム支援額合計 | 71,023,295 |

プログラム支出額

| | |
|------------------------|------------|
| スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト | 6,306,361 |
| 教育プロジェクト | 17,317,266 |
| 食糧確保プロジェクト | 27,287,250 |
| 保健プロジェクト | 7,078,542 |
| 水衛生プロジェクト | 6,413,944 |

| | |
|------------|------------|
| プログラム支出額合計 | 64,403,363 |
| 次期繰越額 | 6,619,932 |

支援分野別内訳(ETH-182258)



水衛生プロジェクト

地域では住民の多くが野外で用を足します。そうした習慣や住環境を改善するため、支援地域内の村に6つのトイレとシャワーを備えた公共トイレを建設しました。住民たちが積極的に資材の提供や建設作業に協力し、300世帯がこの公共トイレを使用できるようになりました。また4カ所で手掘り井戸の建設も支援し、600世帯が安全な水を得ることができるようになりました。

建設された公共トイレ。
シャワーも利用できます



保健プロジェクト

地域の診療所へ医療器具の提供や、地域住民へマラリアやHIV/エイズなど感染症予防についての啓発活動を行ったほか、HIV/エイズにより弱い立場におかれている子どもたちやHIV/エイズ感染者を支援するため、2,300人の子どもたちが治療や診察を受けられるよう支援しました。そのほか、HIV/エイズとともに生きる人々で立ち上げたグループが印刷屋を開業できるよう、コピー機と発電機を提供するなど、HIV/エイズ感染者の家族の収入向上を目指した支援を行いました。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

支援地域では早婚の伝統がまだ根強く残っていることから、子ども、特に女の子の権利について啓発活動を行いました。また、以前ADPが中心となって立ち上げた地域の子ども議会が、警察と協力し、この1年で5人の女の子を早婚から守りました。

早婚をなくし、女の子も学業を続けられるよう、女子の権利について啓発活動を行いました



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail : dservice@worldvision.or.jp ホームページ : www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。